

2021/10/14

「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」展関連プログラム

オンライン国際シンポジウム

「世界的に不確かな時代において、写真は今どのような意味をもっているだろうか？」

2021年10月15日（金）、16日（土）、17日（日）各日17:00～（日本時間）



「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」展 東京都写真美術館 ナタリー・キング共同企画 2021

© Kenji Takahashi

東京都写真美術館では、メルボルン大学、東京藝術大学の協力により、「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」展の関連プログラムとして、オンライン国際シンポジウムを開催いたします。そして、本展共同企画者であり、オーストラリアを代表するキュレーター、ライター、シニア・リサーチャーとして2020年にはオーストラリア勲章（OAM）を受賞したナタリー・キングとともに本シンポジウムをリードします。

「リバーシブルな未来」と題されたこの展覧会では、マレイ・クラーク、ローズマリー・ラング、ポリクセニ・パパペトロウ、ヴァル・ウェンズ、石内都、片山真理、畠山直哉、横溝静8名の作品を紹介しています。

写真は過去、現在、未来を行き来し、昨日、今日、明日を結びつけ、過去を振り返り、現在で立ち止まり、共有されうる未来を想像することを可能にしてくれます。

移動の機会が制限されている現在、パンデミック、気候変動、格差の拡大など、様々な問題を抱える世界において、現代写真が人間の条件について何を語るかを考えることは不可欠です。本シンポジウムでは、そのような世界的な激動の時代にあって、人間は脆弱であり、不確かな運命の中にある今、現代写真がどのような役割を担っているのか、その意義について考えます。そして、各アーティストへのインタビュー、レクチャー、パネルディスカッションを含むこのシンポジウムは、日本とオーストラリアの8名の現代作家に焦点をあて、「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」展への理解をより深めてくれるものとなるでしょう。

## ナタリー・キングより メッセージ

このシンポジウムは、写真、映像、アートについて思考する人々が集い、現代写真の直面している問題について考える重要な機会となります。そして、世界中から参加されるオーディエンスへ、ますます世界的に不安定な状況となっている現在において、時間、記憶、物語の問題について思考する契機を与えてくれるものとなることでしょう。

## 視聴方法

本シンポジウムは事前収録動画を放映いたします。ご視聴の際は以下の Youtube チャンネルよりご覧下さい。

<https://www.youtube.com/channel/UCpU5Bu05yquLTbBCdZ3pdmg/videos>

\*全てプログラムには、日本語／英語の字幕がつきます。無料でご視聴いただけます。

## シンポジウム概要

### ◎ プログラム 1 （約 60 分）

日時：2021年10月15日（金）17：00-（日本時間）

登壇者:

[インタビュー]石内都、マレイ・クラーク、片山真理（すべて出展作家）、オリンピア・ネルソン（出展作家ポリクセニ・パパペトロウ氏のご息女）

ナタリー・キング（キュレーター、ライター、シニア・リサーチャー、メルボルン大学ヴィクトリアン・カレッジ・オブ・ザ・アーツ教授、オーストラリア勲章（OAM）受章）

### ◎ プログラム 2 （約60分）

日時：2021 年 10 月 16 日（土）17：00-（日本時間）

登壇者:

[インタビュー]ヴァル・ウェンズ、横溝静、畠山直哉、ローズマリー・ラング（すべて出展作家）

ナタリー・キング

### ◎ プログラム 3 （90分）

日時：2021 年 10 月 17 日（日）17：00-（日本時間）

登壇者:

[ミニレクチャー・討論] 片岡真実（森美術館館長、国際芸術祭「あいち 2022」芸術監督）、ナタリー・キング

## 登壇者プロフィール

### ◎ プログラム 1

#### 石内 都



©Maki Ishii, courtesy of The Third Gallery Aya

群馬県生まれ。神奈川県横須賀市で育つ。広島平和記念資料館に寄贈された被爆者の遺品を撮影した〈ひろしま〉は、2007年より制作され、その後も石内は毎年広島を訪れ、本作を制作し続けている。社会的な歴史と個人の歴史の交点を探る彼女の作品は、国内外で高く評価されている。

#### マレイ・クラーク



©Eugene Hyland

ヴィクトリア州スワン・ヒル生まれ。ヨルタヨルタ、マディマディ、ブンウルン、ウェンバウェンバという4つの部族の血を引く先住民の女性として、ヴィクトリア州北西部で育つ。彼女は30年間にわたり、ヴィクトリア州の州都メルボルンを拠点に、文化的実践、知識の再生に焦点をあてた芸術活動を行ってきた。

#### 片山真理



©Mari Katayama courtesy of Akio Nagasawa Gallery

1987年埼玉県生まれ。群馬県太田市で育つ。片山の作家活動は、先天性脛骨欠損症のため9歳の時に両足を切断したことで制限のある体となった自らの体験に基づいている。手縫いのオブジェと自分の義足に囲まれた彼女自身を写真に撮ることで、美しさや儚さ、官能性、女性性、脆さ、そして制限のある体となった者として自らの身体的特徴をどう描写するかといった問題を考察している。

#### オリンピア・ネルソン



©Eugene Hyland

本展出品作家のポリクセニ・パパペトロウのご息女。オリンピアはポリクセニ作品の主要な題材として登場し、母の制作を間近で見続けてきた。母のポリクセニ・パパペトロウ（1960-2018）は1960年ヴィクトリア州メルボルン生まれ。パパペトロウは、パフォーマンス的要素を取り入れた写真表現を通して、歴史、現代文化、アイデンティティ、自己の存在の関係性を探求する。

## ◎ プログラム 2

### ヴァル・ウェンズ



©Val Wens

1974年インドネシア・ジャカルタ生まれ、シドニー在住。ウェンズの作品は主にセルフポートレートであり、写真、ビデオ、パフォーマンスの分野にまたがって制作される。彼の作り上げる写真による物語や隠喩は、神話と現実の両方に関わるもので、より広い意味で人間の苦闘についての社会的主張ともなっている。

### 横溝 静



© Shizuka Yokomizo, courtesy WAKO WORKS OF ART

東京生まれ、ロンドン在住。横溝は、写真家と被写体の間で交わされるやり取りの瞬間に焦点をあわせることを通して、写真や映像媒体による表象が持つドキュメンタリーの側面とフィクション的側面との間の緊張関係を探求している。

### 畠山 直哉



1958年岩手県生まれ。人間の文化と自然環境との間で高まった緊張感を意識させるような叙事的で大規模な写真作品で知られている。畠山の写真作品は、人工的な環境の中で起こる建造、災害、そして破壊をモチーフとして、「変化」と「再生」という概念を探求している。

### ローズマリー・ラング



©Cecilia Boote

クイーンズランド州ブリスベン生まれ。ラングの制作活動は、コンセプトに基づき、オーストラリアの文化的意識に影響を与えた時代や出来事をたどりながら、進行形の物語を形成しています。

## ◎ プログラム 3

### 片岡真実



©Ito Akinori

森美術館 館長。ニッセイ基礎研究所都市開発部研究員、東京オペラシティアートギャラリー・チーフキュレーターを経て、2003 年より森美術館。2020 年より現職。これまでアジア人作家を中心に、艾未未（2019 年、2012-2014 年海外巡回）、会田誠（2012 年）、塩田千春（2019 年、2019-2023 年海外巡回予定）を含む数多くの個展、グループ展を手掛ける。最新の展覧会は「アナザーエナジー展：挑戦しつづけるカー世界の女性アーティスト 16 人」（2021 年、森美術館）。2007～2009 年はヘイワード・ギャラリー（ロンドン）にて、インターナショナル・キュレーターを兼務。第 9 回光州ビエンナーレ（2012 年）共同芸術監督、第 21 回シドニー・ビエンナーレ（2018 年）芸術監督。2022 年開催予定の国際芸術祭「あいち 2022」芸術監督。2014 年から CIMAM（国際美術館会議）理事、2020 年より会長を務める。

### ナタリー・キング プロフィール |



©Alli Oughtred

メルボルン大学ヴィクトリアン・カレッジ・オブ・ジ・アーツ教授。オーストラリアを代表するキュレーター、ライター、シニア・リサーチャーとして、アジア太平洋地域を中心に、シンガポール美術館、国立国際美術館、インドネシア国立美術館、シドニー現代美術館、高雄市美術館などで展覧会のキュレーションを行い、国際的な現代アートプロジェクトに携わる。第 57 回ヴェネツィア・ビエンナーレの「Tracey Moffatt: My Horizon」展（オーストラリア館、ヴェネツィア、2017 年）のキュレーターを務め、現在 2022 年の第 59 回ヴェネツィア・ビエンナーレでのニュージーランド館のキュレーターとして「Yuki Kihara」展を企画。Thames & Hudson の Mini Monographs シリーズの編集者も務める。また、パリの国際美術評論家協会会長、CIMAM やメトロ・トンネル・アートの諮問委員。現代美術への貢献により、2020 年にオーストラリア勲章（OAM）受章。

[www.natalieking.com.au](http://www.natalieking.com.au)

主 催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館、東京新聞

特別協力：メルボルン大学

助成：オーストラリア大使館、豪日交流基金、公益財団法人吉野石膏美術振興財団

協力：東京藝術大学



本事業はオーストラリア政府外務貿易省の豪日交流基金より助成を受けて実施しております。

## お問い合わせ先

本シンポジウムに関するご掲載及びご質問等につきましては、広報担当までご連絡ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 電話 03-3280-0034 /  
FAX 03-3280-0033 / [www.topmuseum.jp](http://www.topmuseum.jp)

展覧会担当 山田 裕理 / 浜崎 加織 / 伊藤 貴弘

広報担当 池田 良子 / 平澤 綾乃 / 鈴木 彩子

[press-info@topmuseum.jp](mailto:press-info@topmuseum.jp)

## 展覧会概要 |

「リバーシブルな未来 日本・オーストラリアの現代写真」

ナタリー・キング共同企画

## [出品作家]

マレイ・クラーク、ローズマリー・ラング、ヴァル・ウェンズ、ポリクセニ・パパペトロウ、  
石内 都、片山真理、畠山直哉、横溝 静

会 期 2021 年 8 月 24 日（火）－10 月 31 日（日）

会 場 東京都写真美術館 3 階展示室

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

電 話 03-3280-0099 [www.topmuseum.jp](http://www.topmuseum.jp)

開館時間 10:00-18:00（木・金曜日は20:00まで） ＊入館は閉館時間の 30 分前まで

休 館 日 毎週月曜日

観 覧 料 一般 700 円／学生 560 円／中高生・65 歳以上 350 円

※小学生以下及び都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者（2 名まで）は無料。

※オンラインによる事前予約を推奨します。詳細はホームページをご参照ください。